

年々影響大「中学生チャレンジテスト」

15年度から始まった「中学生チャレンジテスト」。来年1月実施に行われる1、2年生の「テスト」で5度目を迎えます。

この「テスト」は「行政調査」にもかかわらず、その範ちゅうを大きく超えた活用が行われ、明らかに法律違反です。

大阪教職員組合（大教組）では、この重大性を踏まえ、毎回実態調査を行っています。この「テスト」をいつまで続けるのでしょうか。

テストに縛られずに 教育活動がしたい



【学校の様子】
・過去問1〜2年分の配布は当たり前になっている。
・「チャレンジテスト」なる対策プリントを学年で作成。長期休みでの宿題や、夏の特別講座を開き、チャレンジテスト対策を行った。

対策あり
86%

「チャレンジテスト」対策（授業や課題の配布等）は行われましたか。行われた場合どのような対策ですか。

「チャレンジテスト」の範囲を終わらせるために進度を早くするなど、教育課程に影響はありましたか。

影響あり
52%

【学校の様子】

・授業中に過去問をさせ、その点数を振り返らせ、解説を行っている。
・中3は4、5月中に、1、2年生は2学期末に過去問を配り、授業中や宿題で対

切実な声を集めて「要望書」提出

障害のある子どもたちに
健やかな発達と
教育の保障を

泉北教組は、アンケートを基に障害児教育の「要望書」をつくり、高石市教育委員会に提出しました。

【主な内容】

ダブルカウント制を復活して下さい。大半の児童・生徒が、一日の多くの時間を通常学級で過ごしています。通常学級での人数にカウントせず、40人を超える学級がでるのは実態に適應していません。

学級定数を引き下げて下さい。現行の定数は8人です。年度はじめから9人でスタートするのはやめて、増学級にして下さい。35人以下学級を早急に実現して下さい。

上記以外にも「要望書」には、切実な労働条件の改善や各校の施設・設備改善もあります。

11月22日・金・午後6時～
高石市教育委員会との交渉

策を行っている。

・グラフや図表、ポスターなどから情報を読み取り、文章化する問題に多く取り組んだ。

《分析》

・テスト対策が当たり前になり、年々過熱化していることは、非常に大きな問題です。教育課程への「影響あり」との回答が半数を超えたことは、大きな問題です。（テストあつて教育なし）

対策あり
19%

【主な対応事例】

（対応ありと答えた中より）
・保護者対応38%
・受験の可否や、テストの仕組みの説明。答案用紙の後日発送の確認

「チャレンジテスト」当日、勉強が苦手な生徒や障害のある生徒、不登校の生徒や遅刻の多い生徒などに対し、普段と違う対応がありましたか。

などをおこなう。

・別室対応（当日） 33%
・後日発送 19%



《分析》

・前回調査より、対応ケースが増加しています。これにより、本来であれば必要のない対応を教員に強いており、労働強化の一端を、このテストが担っています。

また、そのような対応を迫られる保護者、教員の精神的な負担も大きいと思われるます。

そして何より、生徒たちに、受験の可否を問わなければ事態を発生させる「中学生チャレンジテスト」には、大変大きな問題があると指摘しなければなりません。

（「テスト」結果を高校受験の内申に反映することとは絶対にダメです）

教職員の生活と権利を守るため、泉北教組に加入しましょう